

スモールコンセッション推進方策 骨子（案）

はじめに

第1章 背景

- (1) 自治体を取りまく現状
 - ・ 人口減少や少子高齢化等による廃校や空き施設等の遊休公的不動産の増加
 - ・ 相続等を契機とした古民家等の地方公共団体への寄付
 - ・ 地方公共団体の職員は減少傾向にあり、地方財政は厳しい状況
- (2) 政府の PPP/PFI の取組
 - ・ 「PPP/PFI 推進アクションプラン（令和5年改定版）」では、地域における活用拡大方策として、「スモールコンセッション」が新たに位置づけ

第2章 スモールコンセッションとは

- (1) スモールコンセッションとは
 - ・ 定義、コンセプト、ポイント、効果
- (2) スモールコンセッションの事業手法
 - ・ コンセッション手法を中心に、個別の案件に応じて様々な手法が想定（コンセッションや R0 等の PFI、賃貸借、指定管理等）
- (3) 想定される施設類型
 - ・ 観光施設、スポーツ施設、研究施設、定住促進住宅、福祉施設など様々な施設類型が想定
- (4) スモールコンセッションの特徴
 - ・ より簡略かつ短時間、民間アイデア等の積極的な取入れ、エリアとの連携、波及が主な3つの特徴
- (5) 関係者の連携イメージ
 - ・ 国の機運醸成や案件形成支援等を通じた、地方公共団体と民間事業者間の官民対話の促進等により、積極的な事例創発を目指す
- (6) スモールコンセッションの目指す姿
 - ・ どんな地域でも身近な施設から取り組み、まちの負「債」を資「財」に変え、エリアリノベーションを実現する

第3章 現状と主な課題の整理

- (1) 組織・人材
 - <地方公共団体>
 - ・ PPP/PFI に精通している人材確保

- ・ PPP/PFI への理解醸成
- ・ 組織横断的な部署やチームの設置

<民間事業者>

- ・ PPP/PFI への理解醸成
- ・ PPP/PFI に精通している人材確保

(2) エリア・施設

<地方公共団体>

- ・ エリアコンセプトに応じたエリアや施設の選定
- ・ エリア全体における連携

<民間事業者>

- ・ 公的不動産の情報取得
- ・ 住民の理解醸成・巻き込み

(3) 事業創造

<地方公共団体>

- ・ 利活用アイディアの創出
- ・ 検討の期間短縮、負担軽減
- ・ 官民対話機会・出会いの創出
- ・ 精度の高いサウンディングの実施

<民間事業者>

- ・ 官民対話機会・出会いの創出
- ・ 民間提案の受け入れ
- ・ 検討の期間短縮・負担軽減
- ・ 自由度の高い事業

(4) 資金調達

<地方公共団体>

- ・ ファイナンスに関する知識の習得
- ・ 利用可能な補助メニューの把握

<民間事業者>

- ・ 信用力の担保
- ・ 事業性の確保
- ・ エリア内の他事業との連携

(5) フェーズ毎の課題整理

- ・ 課題は、機運醸成から公募・選定のフェーズに至るまで存在

(6) 課題のまとめー推進上の「壁」ー

- ・ 推進上のハードルとして、主に3つの壁（イメージの壁、パートナーの壁、事業化の壁）にまとめられると考えられる。

第4章 スモールコンセッションの推進方策の方向性と取組

(1) 普及啓発による機運醸成・意識改革

- ・ 推進母体となる運動体の設立
- ・ セミナー・イベントの開催
- ・ 地方公共団体のトップの理解促進
- ・ 職員に対する研修
- ・ 媒体を利用した情報発信

(2) 手続きの円滑化

- ・ スモールコンセッション実践ガイドライン（仮称）・事例集の整備
- ・ 手続きの簡素化・検討期間短縮化

(3) 官民マッチング強化

- ・ 官民をつなぐ仕組みの構築

(4) 案件形成支援

- ・ 事業化検討への支援

今後に向けて